有明工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	体育実技
科目基礎情報					
科目番号	0049		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	前期:1	
教科書/教材	イラストでみる最新スポーツルール (大修館書店)				
担当教員	野口 欣照				
到達目標					
1. 基本的なソフトボールの技術を身につけることができる 2. ベースボール型のスポーツの特性を理解できる 3. 作戦を活かした攻防を展開してゲームができる					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	ベースボール型のスポーツの特性を理解し、基本的なプレーがゲーム中にてできる。		ソフトボールのルールを理解でき、10m程度で「あれは意図したところに投げることができる。」		ソフトボールのルールを理解できず、10m程度でも意図したところに投げることができない。
評価項目2	ベースボール型のスポーツの特性を理解し、ポジションに応じたプレーがゲーム中にてできる。		ソフトボールのルールを理解でき、20m程度で「あれは意図したところに投げることができる。」		ソフトボールのルールを理解できず、20m程度でも意図したところに投げることができない。
評価項目3	ベースボール型のスポーツの特性を理解し、作戦に応じたプレーがゲーム中にてできる。		ソフトボールのルールを理解でき、バントなどができる。		ソフトボールのルールを理解できず、バントなど意図したところに打つことができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A-1					
教育方法等					
概要	近い将来社会人になることを考え、個人のトレーニングと併せ社会性の育成を確立させる為に、運動量のあるチームスポーツに親しみ、職場における人間関係を円滑にする面や生涯スポーツの面からもレクリエーションスポーツに精通し、将来的に余暇を利用し、スポーツに興じることができるようになりたい。更に運営や審判などができるようにし、スポーツを通して共同、責任、リーダーシップ等を身につける。				
授業の進め方・方法	実技中心に進めていく ルールテスト、実技テスト有り				
注意点	実技テスト評価 80%、小テスト評価 20%で総合評価とする				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス説明	シラバスの内容を説明できる	
		2週	新体カテスト、集団行動	自分の現在の体力を確認できる、号令に合わせて(集団で)行進や方向転換などができる	
		3週	新体カテスト、集団行動	同上	
		4週	ソフトボールルール説明、キャッチボール	ソフトボールのルールを理解できる、自分の意図したところに投げることができる	
		5週	キャッチボール、ゴロ捕球、フライ捕球	自分の意図したところに投げることができる、正しい形で捕球できる	
		6週	キャッチボール、ゴロ捕球、フライ捕球、バッティング	自分の意図したところに投げることができる、正しい形で捕球できる、自分の意図したスイングができる	
		7週	キャッチボール、ゴロ捕球、フライ捕球、バッティング	同上	
		8週	実技テスト	自分の意図したスイングができる	
	2ndQ	9週	バッティング、ゲーム	自分の意図したスイングができる、メンバーと協力してゲームができる	
		10週	バッティング、ゲーム	同上	
		11週	バッティング、ゲーム	同上	
		12週	バッティング、ゲーム	同上	
		13週	バッティング、ゲーム		
		14週	実技テスト		
		15週	ゲーム	メンバーと協力してゲームができる	
		16週	ゲーム	メンバーと協力してゲームができる	
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
			自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	1	
			目標の実現に向けて計画ができる。	1	
			目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	

			日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	1	
			社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1	
			チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	
			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	
			他者のおかれている状況に配慮した行動をとれる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0